

文字数よりも由来を確かめる

学習ポイント 1 | 故事成語と漢文

八つの故事成語を、原典の短い抜粋と前後の説明から学びます。言葉の意味だけでなく、たとえのしくみや現代で使える場面を考えましょう。

故事成語とは

古い出来事や書物の言葉をもとに、まとまった意味で使われる表現です。中国の古典に由来するものが多くあります。物語やたとえも由来になるので、全てが実際の事件とは限りません。

四字熟語と同じではない

「矛盾」「蛇足」は二字、「五十歩百歩」は五字です。四字であるだけで故事成語と決まるわけではありません。「温故知新」のように、物語でなく古典の言葉から生まれたものもあります。

読む順序

①登場するもの・人の関係を確認する。②何が原因で何が起きたかを整理する。③原文の大切な語を語注で確かめる。④今の意味と使う場面を考える。

矛盾の話を二つの場合に分ける

学習ポイント2 | 故事成語と漢文

由来の要点

商人は「何も通さない楯」と「何でも通す矛」を売ります。この矛でこの楯を突けばどうなるでしょう。

矛が楯を突き通す場合

「何も通さない楯」という説明が成り立ちません。

突き通せない場合

「何でも通す矛」という説明が成り立ちません。どちらの結果でも二つの説明は同時に成り立たず、つじつまが合わないのです。

現代の用例

「同じ場所・同じ時刻に誰もいなかった」と「私はそこにいた」は矛盾します。時刻や条件が違う二つの話を、すぐに矛盾と決めつけないようにします。

昔の話を今の場面へつなげる

学習ポイント3 | 故事成語と漢文

共通するしくみを探す

漁夫の利は、単に漁師が何かを得ることではありません。「争う二者」「利益を得る第三者」の関係が大切です。五十歩百歩は、少しの差を認めた上で、本質が同じだと見る表現です。

似た言葉も対比する

温故知新は過去を学び直して新しい理解を得ること。守株は過去にこだわり、変化に合わせないこと。過去に関わる点は共通でも、向き合い方が違います。

使い方の注意

杞憂は、具体的な根拠に基づく必要な備えを否定する言葉ではありません。朝三暮四では合計が同じ点に注目しますが、現実には受け取る時刻が大切な場合もあります。たとえの範囲を意識しましょう。

学習の進め方

AとBは資料を読みながら基礎を確認し、Cは使い方を説明します。Dだけが100点の確認テストです。丸暗記にせず、答えの根拠を資料の言葉に戻って確かめます。

原典と教材の利用について

出典確認 | 原文と教材の追加部分を区別します

古代中国の原典本文のみを短く抜粋しています。現代の翻訳・注釈・問題文を転載せず、語注・前後の説明・解説・設問は本教材用に作成しました。字体や句読点を読みやすく整えた箇所があります。

韓非子 難一

[原典の電子本文を開く](#)

句読点変更。楯は原文の字形を保持。

戦国策 斉策二 昭陽為楚伐魏

[原典の電子本文を開く](#)

句点追加。本文のみ利用し、注・校勘記は不使用。

韓非子 五蠹

[原典の電子本文を開く](#)

釋→釈。読点・句点変更。

孟子 梁惠王上 第3章

[原典の電子本文を開く](#)

歩→步。読点変更。

戦国策 燕策二 趙且伐燕

[原典の電子本文を開く](#)

兩→両。句読点追加。禽は底本の字を保持し、捕らえると注記。

列子 天瑞篇

[原典の電子本文を開く](#)

國→国、廢→廃、寢→寝。句読点変更。

列子 黄帝篇

[原典の電子本文を開く](#)

別々の発言から各部分を抜粋。連続する原文ではないと教材に明示。

原典と教材の利用について

出典確認 つづき

論語 為政第二 2・11
原典の電子本文を開く
溫→温。句点追加。